

ブラインドゴルフ 競技規定

《 2020年10月度版 》

特定非営利活動法人

日本ブラインドゴルフ振興協会

目 次

はじめに	P.1
1 ブラインドゴルファーの定義	P.2
「障害者手帳の写し」「視力診断書」の提出について	P.3
2 ゴルフ規則	P.4
－新型コロナウイルス感染症予防対策について－		
3 ブラインドゴルフ固有のルール	P.5
「障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正」R&A/USG		
4 競技の形態とリーグ分けについて	P.7
ステーブルフォード競技についての解説	P.8
5 ハンディキャップについて	P.9
6 競技への参加資格	P.12
7 競技運営上の主なルール等	P.13
【ハンディキャップと入賞資格】		
【ガイドについて】		
【スコアラー】	P.14
【盲導犬】		
【道具】		
【プレーに関して】	P.15
【スロープレー防止】	P.16
【アテスト】	P.18
【順位の決定】		
【その他】		
8 地方競技会	P.19
9 JBGAポイントランキング制度	P.20
10 JGA/USGAのハンディキャップ取得について	P.21
11 ガイドの交通費、宿泊費の援助	P.22
12 大会やラウンド練習会でのエチケットとマナー	P.24

日本ブラインドゴルフ振興協会 競技規定

はじめに

日本ブラインドゴルフ振興協会（Japanese Blind Golf Association 以下、JBGA）は、世界ブラインドゴルフ協会（International Blind Golf Association 以下、IBGA）の正式メンバーであり、日本における視覚障がい者ゴルフの草分けである。

JBGA はブラインドゴルフを通じて、

- ① 視覚障がい者が「クオリティ・オブ・ライフ（質の高い生活）」を享受しつつ、明るく発展的な生き方を可能にする数多くのチャンスを提供する。（ブラインドゴルファーも、最大限、自分ですべてのアクションをするよう意義づけられている）
- ② 晴眼者（健常者）がボランティア活動を通じ、奉仕者自身の精神的、かつ肉体的な向上を目指す機会を提供する。また、ブラインドゴルフという具体的なスポーツを共有体験することにより、障がい者の自己実現の手助けをし、真実の福祉や公共性、教育性、文化性、国際性などをふまえた、新しい時代の福祉の理想を実現する。

これらのことを標榜し、ハンディのある人々の生活体験領域を広げると共に、こうした社会的意義を啓蒙しようとするボランティア団体が活動を広げることが、我が国の福祉文化の向上につながるものであると考える。

JBGA は、この理念のもと、以下に記載する競技規定に基づき競技会を開催する。

1 ブラインドゴルファーの定義

IBGA では、視覚障がいの視力カテゴリーを下記のとおり区分しており、JBGA もそれに準じている。この3つの区分のいずれかに属する競技者をブラインドゴルファーと定義する。

- B1：【下限】 全く明光を弁じ得ない
【上限】 光覚弁（明暗弁：どのような距離においても手の形を弁別し得ない）
- B2：【下限】 手動弁
【上限】 視力0.03以下（スネレン指標2/60以下）
- B3：【上限】 0.1以下（スネレン指標6/60以下）

◎検査は視力のみ測定し、視野障害は考慮しない。

◎検査は専門家（日本の場合は眼科医）により矯正視力で行われなければならない。

◎片眼それぞれの検査と、両眼一緒の検査をする。

◎分類は最もよい測定結果（片眼の視力または両眼の視力）により判定される。
（両眼の視力の和ではない）

例：左眼が0.016、右眼が0.05 で両眼による測定がどちらかの視力を超過しない場合は右眼によって分類され、この人物はB3と判定される。

補足：IBGA 規定から外れる視力の場合でも、国内競技に限り「B3扱い」で競技に参加できる。ただし、原則として以下の要件を満たし、理事会の承認を得ること。

- ①視覚障がいについて障害者手帳を交付されていること。
- ②視野狭窄などで行動が著しく制限されていること。
- ③ガイドの介助無しでの単独のゴルフプレーが困難であること。

「障害者手帳の写し」「視力診断書」の提出について

- ① JBGA 入会時に、障害者手帳のうち、顔写真、氏名、住所等記載のページ及び、視力が記載されたページのコピーを提出すること。
- ② 入会后、最初の大会に出場する際、その大会の1ヶ月前までにIBGA 所定様式の「視力診断書」を提出する。
- ③ 障害者手帳の更新や、視力が変わり新たな「視力診断書」を取得した場合、再提出しなければならない。

2 ゴルフ規則

IBGA では、R&A ルールズリミテッドと全米ゴルフ協会（USGA）が制定する「THE RULES OF GOLF（ゴルフ規則）」と「A MODIFICATION OF THE RULES OF GOLF FOR GOLFERS WITH DISABILITIES（障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正）」を適用している。

（「3 ブラインドゴルフ固有のルール」次ページを参照）

JBGA では、上記 IBGA の規定に準拠し、日本ゴルフ協会（JGA）が発行する「ゴルフ規則」最新版を適用する。

また、競技毎に、各ゴルフ場のローカルルールを必要に応じて適用する。

注）：R&A ルールズリミテッドとは、世界的に有効となるゴルフ規則の制定、変更、解釈、適用に関する権限を有する機関であり、「ホーム・オブ・ゴルフ」といわれるスコットランドのセントアンドリュースに本拠地を置く。

—新型コロナウイルス感染症予防対策について—

新型コロナウイルス感染の予防対策として、以下の指針が発表された。

- ① JGA から「新型コロナウイルス感染症予防対策としてのゴルフ規則修正の指針」が発表された。

これは「緊急事態宣言」等の行動制限が解除されていく中で、ゴルフ競技の再開を目指す担当者のためのゴルフ規則修正の指針である。

詳細については、JGA ウェブサイト「規則・用具」を参照のこと。

- ② ゴルフ関連5団体新型コロナウイルス対策会議から「日本国内プロゴルフトーナメントにおける新型コロナウイルス感染症対策」が発表された。

これはゴルフ関連5団体（JGA、PGA、LPGA、JGTO、GTPA）を中心とする対策会議で採択されたもので、政府対処方針等に則り、感染症専門医の監修を前提としたゴルフトーナメント運営の指針である。プロ競技に限らず JBGA の競技運営においても参考とするものである。

詳細については、JGA、PGA、LPGA、JGTO、GTPA いずれかのウェブサイト参照のこと。

3 ブラインドゴルフ固有のルール

「障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正」 R&A/USG

JBGA では、R&A と USG による「障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正」を適用する。

以下、2019 年1月発効の「R&A/USG 障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正 (JGA 和訳)」規則の修正 1-盲目のプレーヤーについて。
(ここで記載されている「補助員」は JBGA での「ガイド」に相当する)

規則の修正 1-盲目のプレーヤーについて

目的: 盲目のプレーヤーについて、規則の修正 1 はプレーヤーが補助員とキャディーの両方からの支援を同時に受けることを認め、クラブでバンカー内の砂に触れることについての禁止事項への限定された例外をプレーヤーに与える推奨事項を規定している。

委員会は盲目のプレーヤーについて以下の修正の一つあるいは複数を採用することができる:

1.1 プレーヤーは補助員からの支援を受けることができる

盲目のプレーヤーは補助員から次の場合に支援を受けることができる:

- ・ スタンスをとるとき。
- ・ ストロークを行う前に方向を調整するとき。そして、
- ・ アドバイスを求めたり、受けることによって。

補助員は規則に基づくキャディー(規則 10.3 参照)と同じステータスを持つが、規則の修正 1.4 に記述される例外がある。

規則 10.2a のために、プレーヤーは補助員とキャディーの両方に同時にアドバイスを求めたり、補助員とキャディーの両方から同時にアドバイスを受けることができる。

※但し、JBGA「ジャパンオープン」等の場合には言語の弊害による不公平を無くするため、上記の内キャディーからのアドバイスを禁止する場合がある。

1.2 プレーヤーは補助員を同時に 1 人だけ使うことができる

盲目のプレーヤーは補助員を同時に 1 人だけ使うことができる。
もしそのプレーヤーが補助員を同時に2人以上使う場合、そのプレーヤーは違反が起きた各ホールで一般の罰を受ける(規則 10.3a (1)に規定されているのと同じ方法)。

1.3 規則 10.2b(4) (キャディーがプレーヤーの後方に立つことの制限)の修正

規則 10.2b(4)は修正され、プレーヤーがストロークを行うときに補助員やキャディーが手助けをしない限りは、プレーヤーのストローク中やストローク前のどの時点でも補助員やキャディーがプレーの線の球の後方延長線上やその近くに故意に立っていたとしても罰はない。

しかし、規則 10.2b(3)は修正されず、スタンスをとるときに援助となる物を置いてはならない。

1.4 規則 10.3(キャディー)の修正

盲目のプレーヤーの補助員はそのプレーヤーのキャディーとしての役割を務めることができるが、そうする必要はない。

プレーヤーは補助員とキャディーの両方を同時に使うことができる。その場合:

- ・ その補助員はプレーヤーのクラブを持ち運んだり、扱ってはならない(プレーヤーがスタンスをとったり、ストロークを行う前に方向を調整することを手伝うとき、または定義「キャディー」に規定されている親切心からプレーヤーを手伝う場合を除く)。しかし、規則 10.2b(3)は修正されず、スタンスをとるときに援助となる物を置いてはならない。
- ・ その補助員がこの規則に違反してプレーヤーのクラブを持ち運んだり、扱う場合、そのプレーヤーはキャディーを同時に2人使ったことになり、違反が起きた各ホールについて一般の罰を受ける(規則 10.3a(1)参照)。

1.5 規則 12.2b(1) (バンカーの砂に触れることで罰を受けることになる場合)の修正

バンカー内で自分の球にストロークを行う前に、盲目のプレーヤーは次の場所や場合に罰なしに自分のクラブでそのバンカー内の砂に触れることができる:

- ・ 球の直前、直後の区域。そして、
- ・ ストロークのためにバックスイングを行うとき。

しかし、そうするときプレーヤーはクラブを軽く地面に置く結果として改善される以上にその球のライを改善してはならない。

プレーヤーには依然として砂の状態をテストするために故意にバンカー内の砂に触れたり、練習スイングをするときにクラブでバンカー内の砂に触れることについての規則 12.2b(1)の禁止事項が適用となる。

1.6 規則 14.1b(球を拾い上げることができる人)の修正

プレーヤーの球がパッティンググリーン上にある場合、規則 14.1bは修正され、プレーヤーのキャディーに加えて、そのプレーヤーの補助員がプレーヤーの承認なしに球を拾い上げることができる。

4 競技の形態とリーグ分けについて

- JBGA 主催の「全国大会」及び「地方競技会」を年間数回開催する。
- JBGA 主催の「全国大会」は、下記の通り2つのリーグに分けて開催し、それぞれ入賞者を決定する。
- リーグの見直しは、大会の都度これを行う。
- 「レギュラー」「チャレンジ」のリーグ分けは、実ハンディキャップが、
男子のB1：54.4、 B2：45.4、 B3：36.4
女子のB1：63.4、 B2：54.4、 B3：45.4
の各数値以下であればレギュラーリーグ、それを超えればチャレンジリーグとなる。
- IBGA 主催の「世界選手権大会」及び、各国主催の「オープン大会」について、その競技の仕方や各国の出場枠（人数）は、IBGA と開催国の協議により決定される。

グループ名	ハンディキャップ条件	競技形式
レギュラー	実ハンディキャップが各数値以下の者 男子 B1：54.4 B2：45.4 B3：36.4 女子 B1：63.4 B2：54.4 B3：45.4	ストローク競技 (打数上限なし)
チャレンジ	上記の各数値を超える者	ステーブルフォード競技 (打数上限でピックアップ)

レギュラーリーグは、打数上限無しのレストランプレーとする。但し、選手はラウンドの途中で「棄権宣言」をすることができる。

ラウンドの途中で「棄権宣言」をした選手は、球をピックアップしてそのホールでのプレーを中断することができる。その選手はその大会での入賞資格を失うが、競技の進行を妨げない限り、次のホールからのプレーを続行することができる。ただし、この場合のスコアカードは、ハンディキャップ算定の対象として有効とはならない。

—ステابلフォード競技についての解説—

各ブラインドゴルファーのハンディキャップに基づき、各ホール、各選手ごとに決められているパースコア（以下「ネットパー」）との比較で、下記の点数をつけ、その合計点数で順位を決定する（点数が多い方が上位）。

遅延プレーとならないよう、ネットダブルボギー（当該競技者のネットパーに2打加えた打数）でカップインしなかった場合は、ボールをピックアップしてそのホールのプレーを終了し、次のホールへ進まなければならない。

• プレーしたホールで

ネットパーより2打以上多い	……	0点
ネットパーより1打多い	……	1点
ネットパーと同じ	……	2点
ネットパーより1打少ない	……	3点
ネットパーより2打少ない	……	4点
ネットパーより3打少ない	……	5点
ネットパーより4打少ない	……	6点

ネットパーは競技者により異なる。具体的な決め方は、そのコースのホールハンディキャップの順番に、競技者のハンディキャップを割り振る。すなわち、各ホールのパーに1ずつ加算していき、18ホール全てに割り振ってさらに余りがある場合は、残りをまたホールハンディキャップの順番に割り振り、以降、無くなるまで繰り返す。

〈例1：ハンディキャップ15の競技者の場合〉

ホールハンディキャップ1から15のホールについて、各ホールの本来のパーに1を加算したものがネットパーとなる。ホールハンディキャップ16から18のホールについては、本来のパーがそのままネットパーとなる。

〈例2：ハンディキャップ40の競技者の場合〉

18ホールに2ずつハンディキャップを割り振ると $18 \times 2 = 36$ となり、40から引くと4余るので、ホールハンディキャップ1から4のホールにさらに1を加算する。従って、ホールハンディキャップ1から4のホールについては、本来のパーに3を加算したものがネットパーとなり、ホールハンディキャップ5から18のホールについては、本来のパーに2を加算したものがネットパーとなる。

5 ハンディキャップについて

JBGA のハンディキャップの計算方法については IBGA (世界ブラインドゴルフ協会) の規定に準拠し、下記のとおりである。

2020年1月1日より、IBGA のハンディキャップ算定方法が変更になった。主な変更点は、下記の3つである。

- ①スコアカードの有効期間(2年間)がなくなり、20枚までは無期限となった。
- ②ハンディキャップ算定の必要スコアカード枚数は4枚から3枚へ変更。
- ③有効スコアカードの内、実際の計算に使われるカード枚数等の変更。
(P.11 参照)

これを受けて、JBGA の「競技会」に適用されるハンディキャップの算定方法も見直された。

(1) コースレーティングについて

- ①査定の対象となる有効スコアは、日本ゴルフ協会 (JGA) 公認のコースレーティングのあるコースでのプレーを原則とし、「ゴルフ規則」に基づいてプレーした18ホールのスコアとする。
- ②レディスティーのコースレーティングが無い場合は、男子のコースレートと同じとする。
- ③JGA 公認のコースレーティングのないコースで実施された場合は、そのコースのパーの数値をハンディキャップ計算に用いる。

(2) カテゴリー別の競技ハンディキャップ上限は下記のとおりとする。

	B1	B2	B3
男	54	45	36
女	63	54	45

(3) ハンディキャップ計算の対象として有効なスコアカードとその枚数

- ①ハンディキャップ計算の対象として有効なスコアカードは、IBGA 主催もしくは公認の国際大会や、JBGA 主催の「全国大会」「地方競技会」のスコアカードである。
- ②提出されたスコアカードが20枚を越えた場合は、最近のスコアカード20枚を査定対象とする。
- ③提出されたスコアカードが1枚もない者が、JBGA 主催の大会に出場する場合、その視力カテゴリーのハンディキャップ上限値をもって、暫定ハンディキャップとするが入賞資格はない。
- ④IBGA 所定の視力診断書を提出し、IBGA のデータベースに登録された上で、有効なスコアカードが3枚以上になるとIBGA のハンディキャップが交付される。

(4) ハンディキャップ計算にあたっての打数調整（ストロークコントロール）

一般的なストローク競技において、各ホールの打数が各人のネットダブルボギーを越えている場合、そのホールの打数をネットダブルボギーと見なしてグロススコアを算出し、ハンディキャップ計算にあてる。

(5) JBGA ハンディキャップの計算方法

有効カード枚数	計算に適用される枚数	HC 調整
1 (JBGA のみ有効)	ベスト 1	マイナス 2.0
2 (JBGA のみ有効)	ベスト 1	マイナス 2.0
3	ベスト 1	マイナス 2.0
4	ベスト 1	マイナス 1.0
5	ベスト 1	0
6	ベスト 2 の平均	マイナス 1.0
7 または 8	ベスト 2 の平均	0
9 から 11	ベスト 3 の平均	0
12 から 14	ベスト 4 の平均	0
15 または 16	ベスト 5 の平均	0
17 または 18	ベスト 6 の平均	0
19	ベスト 7 の平均	0
20	ベスト 8 の平均	0

※IBGA のハンディキャップは、IBGA 所定の視力診断書を提出して、IBGA データベースに登録の上、有効なスコアカードが3枚以上なければ発行されない。

◎計算結果については、小数点以下第2位から切り捨てる(実ハンディキャップ)。

◎競技に適用する際は、小数点以下第1位で四捨五入した整数値を使用する(競技ハンディキャップ)。

6 競技への参加資格

- ◎ JBGA 主催の「全国大会」、「地方競技会」
 - ・ JBGA 会員のブラインドゴルファーであること。
 - ・ 遅延によるゴルフ場や一般客への迷惑を防止するため、ハーフ9ホールを2時間半以内でプレーできることを参加条件とする。

- ◎ IBGA 主催「世界選手権大会」や IBGA 公認の各国「オープン大会」
 - ・ IBGA 加盟の各国ブラインドゴルフ団体の会員（日本では JBGA の会員）で、IBGA 所定の視力診断書を提出していること。
さらに、IBGA のデータベースに登録された上で、有効なスコアカードが3枚以上あり、IBGA ハンディキャップを保持している者。
 - ・ IBGA 主催の「世界選手権大会」に出場するには、有効なスコアカード7枚以上必要である。

7 競技運営上の主なルール

【ハンディキャップと入賞資格】

JBGA が認めるハンディキャップを使用する。

上記ハンディキャップを持たない者は、その性別とカテゴリー（B1、B2、B3）における上限値を「暫定ハンディキャップ」として、「チャレンジリーグ」に参加することができる。ただし、入賞資格はない。

【ガイドについて】

ガイドはスタート前に、担当ゴルファーのスコアカードにハンディキャップなどの必要事項が正しく記載されているかを確認しなければならない。また、「補助員」（「ブラインドゴルフ固有のルール」P.5参照）としての役割を果たし、遅延防止に努め、自分がガイドをするブラインドゴルファーのスコアカードの記入を行う。

＜ガイドの欠席による代理ガイドの申請について＞

①既に決まっていたガイドが、突発的な事由（天災、事故、急病、その他一身上の都合）により欠席となった場合、ブラインドゴルファーのプレー機会確保の観点から、代理ガイドの申請ができる。

この場合、スコアラーの中にガイドのできる人がいればガイドをしていただき、スコアラーは JBGA 事務局スタッフが務める。なお、ガイドにプロゴルファーがつくことは認める。

②スコアラーの中にガイドのできる人がおらず、事務局（競技の運営）に人的余裕がある場合には、JBGA 事務局スタッフがガイドに入ることができる。

③スコアラーの中にガイドのできる人がおらず、事務局（競技の運営）にも人的余裕がない場合は、ガイドが付くことができないのでそのブラインドゴルファーは棄権扱いとする。

【スコアラー】

- スコアラーは、その競技会の競技委員長が指名するものとし、大会中は競技委員を兼ねる。
- ホールごとに、競技者、ガイドと共に、スコア（罰打を含む）の確認をする。
- 打数の見解が異なる場合は、最終的にはスコアラーが裁定する。
- スコアラーが付かない競技の場合は、競技委員長に連絡して裁定を仰ぐ。
- 競技中、選手はスコアラーから技術的なアドバイスを受けることはできない。アドバイス等を受けた場合は2打罰となる。

【盲導犬】

ゴルフ場が認めた場合に限り、プレー中の盲導犬の同伴を認める。

【道具】

- 距離測定器

距離測定器の使用については IBGA のルールに準拠するものとする。

ローカルルールで許される限りにおいて

◎レーザータイプ：

距離測定に限り、ガイドのみ使用可能。プレーヤーが使用した場合は失格。

◎GPS タイプ（スマホなど）：

距離測定にのみプレーヤーもガイドも使用可能。

他条件の測定に使用した場合、最初は2打罰、繰り返した場合は失格。

- アイマスク

IBGA の規定に従い B1 競技者は、アイマスク（フィルムを張ったサングラスタイプ、ソフト安眠マスクタイプを含む）を持参し、着用しなければならない。アイマスクは競技スタート時にスターターがその可否を確認する。

B1 の選手は、スタートからラウンドが終了するまで、原則としてアイマスクを外してはならない。インターバルの移動中も着用とするが、昼食時のクラブハウス内においては外してもよい。

- 白杖

プレーの際、コース内に白杖を持ち込むことはできるが、これを使って方向などを指示したりすることは、ゴルフルール規則【4-3】違反となり失格となる。球を打つ方向の指示は、試合で使用中のクラブのみ使用することができる。

- クラブ

グリップに竹ひごなどを入れて握る部分を分かり易くしたり、ヘッドに白いテープなどを貼ったりしてはならない。

★スタンスをとるとき、打つ方向を示すためにクラブを置くことはできない。

2019年の新ルールで、プレーヤーがスタンスをとる際、援助となる物を置いてはいけなくなった。従って、ブラインドゴルファーがスタンスをとるために、ガイドがクラブを地面に置いて方向を示すことはできない。

よって、ガイドは、プレーヤーがスタンスをとる前にクラブなどで方向を示すか、スタンスをとる際に方向を示すなら、クラブの片方だけを地面に着けるか、もしくはクラブを浮かして方向を示すことになる。

【プレーに関して】

◎原則としてプレーは「オールノータッチ」、「OKパット」無しとする。

◎男子は、そのヤーデージが6000ヤード程度、女子は、そのヤーデージが5400ヤード程度になるものを使用する。

◎チャレンジリーグで70歳以上のプレーヤーは、通常より距離の短い「シルバーティー」などの特設ティーを使用することができる。ただし、必ず事前に「参加申込書」にその旨を記載しなければならない。この場合、ハンディキャップ計算の有効なスコアカードにはならないが入賞資格はある。

◎アンプレヤブルは、球がペナルティエリア（旧ウオーターハザード）内でない限り、いつでも自己の判断で宣言し、1打罰で救済を受けることができる。

◎球のドロップは、プレーヤー自身がしなくてはならず、ガイドがしてはならない。プレーヤー以外の人から球をドロップしたり、他の方法でドロップされた場合は、その誤りを訂正すること。訂正しなかった時はプレーヤーは1打の罰を受ける（規則 14.3b）。

★ドロップについての新ルール（2019年）

今までは肩の位置からのドロップであったが、ひざの高さからに変更。その際、プレーヤーは立った姿勢である必要はない（ひざをついて行ってもよい）が、従来通り、必ず救済エリア内に球を落とすこと。（規則 14.3）

◎プレースを要する球はプレーヤー本人がしなければならない。

◎リプレースを要する球はプレーヤー、または、プレーヤーが承認した人である（規則 14.1b）。そのような承認は そのラウンド全般に対して与えるのではなく、球を拾い上げる前に その都度与えなければならない。

《例外》：キャディーは、承認なしにパッティンググリーンのプレーヤーの球を拾い上げることができる。但し、プレーヤーのキャディーがパッティンググリーン以外の場所にある球を承認なしに拾い上げた場合、プレーヤーは1罰打を受ける（規則 9.4 参照）。

• プレースとは

- ① 拾い上げた球を別の地点に置くこと。
- ② 別の球を初めの球があった地点に置くこと。

• リプレースとは

- ① 拾い上げた球を、その球が元あった地点に戻すこと。

※球を拾い上げる時は事前に球の位置をマークしなければならない。（規則 14）

【スロープレー防止】

- 原則として素振りは1回とする。

★「40秒ルール」

2019年から制定されたゴルフの新ルール。自分の打順が回ってきてから40秒以内で球を打つことを推奨するルールのこと。不当に遅いプレーの場合は、ペナルティが課せられる。（規則 5.6b）

★球の搜索時間

2019年から制定されたゴルフの新ルール。

今までボール探しの時間は、5分であったが、3分に短縮された。3分以内にボールが見つからなかった場合には紛失球（ロストボール）となる。

3分経って紛失球となった球を打ってしまうと、誤球となり2罰打。

誤球を訂正せずに、次のホールのティーショットを打つと失格。（規則 18.2）

- プレーを終えたグリーンからは速やかに退出し次のホールへ移動しなければならない。そのグリーンや周辺での練習ストロークを禁止する。
- 競技委員会（競技委員長）は、スロープレーに対して、前後の組の進行状況やその他の事情を考慮したうえで、規則 5-6a の違反に対する罰を次のように修正することができる。

① 警告 ② 2打罰 ③ 失格

スロープレー防止の工夫例

- セカンドショット以降、必要と思われるクラブを数本持って移動する（ショットの都度カートへ戻ってクラブの交換をしない）。
- プレー中の移動は、必ずしもカートに乗車せず、状況に応じて徒歩で移動するようにし、カートに戻る回数を極力減らして進行を早める。
- カートへ乗車の際、状況次第でクラブを持ったまま移動する。クラブは、カートが移動先へ到着してからキャディバッグに戻して次のクラブを抜くようにする。
- カートが移動先へ到着したら、ガイドは速やかに次のショットの準備に入る。
- 安全が確保できる限りにおいて、球の位置にかかわらず（ホールから最も遠い球でなくても）、準備ができたプレーヤーから打つ。（2019新ルール）
- パッティングの際、旗竿を抜かなくてもよい。（2019新ルール）
- 前の組と離れてしまい、後ろの組に追いつかれたら追い越してもらおう。プレーヤーは、早い組を先に行かせる（パスさせる）ことが推奨される（5-6b）。

【アテスト】

- ラウンド終了後、速やかに競技者とそのガイド、スコアラースはアテストエリアに集合し、全員でスコアの最終確認をしなければならない。
- 競技者は、同伴競技者のスコアカードに署名をする。
この場合、ガイドの代筆は可能。
- 競技者は、同伴競技者の署名を確認の上、自分のスコアカードに署名する。
この場合、ブラインドゴルファー自身がサインをしなければならない。
- 同組のスコアカードとスコアラースシートを揃えて一緒に提出する。
競技委員のチェックと受領が完了するまでは、競技者とそのガイド、スコアラースはアテストエリアから出てはいけない。
- アテストエリアからの退出をもって、その競技者のスコアが確定したものとす。それ以降の変更は認められない。

【順位の決定】

- 同点、同位の場合

チャレンジリーグでの同点、レギュラーリーグでの同ネットスコアが出た場合、マッチングスコアカード方式で順位を決定する。それでも決しない場合は、18番ホールからのカウントバック方式により決定する。

この場合のマッチングスコアカードの方式は、コース後半の9ホールを比較して決定、それが同点の場合、さらにその後半6ホールを比較し、さらに同点の場合はその後半3ホールを比較する方法である。

【その他】

- 各競技ごとに競技委員会がローカルルールを制定し適用する。

※2019新ルールについては別冊「新ルール解説」参照のこと。

8 地方競技会

- 「地方競技会」とは、5組 10 人程度の小規模で簡便な形で開催される地方での JBGA 主催大会である。各自で所定時刻までにクラブハウスに集合し、各自プレーを終えてスコアカードを提出したら解散する。
- その地域のブラインドゴルファーへ、プレー及びスコアカード取得機会の提供を目的とする。
- 競技はステーブルフォードで行い、スコアラーが随同行する。
- ガイド費用の援助は、交通費のみ（宿泊費は対象外）とし、その上限を 5000円とする。
- 健常者のプレー参加も受け付けるが、遅延プレー防止、安全確保のため、ガイド（介添者）と兼任することはできない。申込多数の場合はブラインドゴルファーを優先する。

※「地方競技会」では、JBGA 事務局はガイドや宿泊先、送迎などの手配は行わない。参加者各自が、所定時刻までにゴルフ場へ来て、ラウンド終了後にスコアカードを提出したら随時解散となる。表彰式は行われないので成績は、後日参加者に告知される。

9 JBGA ポイントランキング制度

各選手の研鑽の指標とするため、ポイント制のランキングを発表する。

• ポイントの集計期間

毎年、1月1日より12月31日までの1年間とする。

ポイントは繰り越さず、次年度は再び0ポイントからスタートする。

• ポイントの種類

参加や入賞状況により、下記のポイントを付与する。

	JBGA 全国大会
参加	2
優勝	7
準優勝	5
第3位	3
第4位	2
第5位	1

※海外大会は対象としない。

• ポイントランキングの発表と表彰

◎ポイントランキングは、レギュラーリーグ、チャレンジリーグそれぞれで集計し、ホームページに掲載する。

◎ポイントは、競技開催の都度更新する。

◎一年間の内に両リーグにまたがって所属した者の点数は、合算せずに各リーグ別に集計する。

◎その年の最終戦で確定したポイントランキングは、各リーグの1位を表彰し、ISPS 主催プロアマ大会やIBGA 主催「世界選手権大会」等の出場選手決定の判断材料とする。

10 日本ゴルフ協会（JGA）/全米ゴルフ協会（USGA）の ハンディキャップ取得について

2018年3月、JBGAはJGAの承認を得て、ブラインドゴルファーへJGA/USGAのハンディキャップ（以下、JGA オフィシャルハンディキャップ）を発給できるクラブ「JBGA・オフィシャルハンデ・クラブ」を、障がい者ゴルフ団体として初めて創設した。

JGA オフィシャルハンディキャップは、ブラインドゴルフの範疇に限られない世界中で通用する公式ハンディキャップである。

JGA オフィシャルハンディキャップの取得は、「JGA ハンディキャップ規定（USGA ハンディキャップシステム準拠）」に従い、JBGAでは「レギュラーリーグ」がこれに該当する。

すなわち、2014年1月以降、JGA 所定のコースレーティングやスロープレーティングのあるゴルフ場で開催されたJBGA 大会において、「レギュラーリーグ」でプレーした有効なスコアカードが5枚以上あれば、それを元にJGA オフィシャルハンディキャップの発行を申請することができる。

※ハンディキャップ取得につきましては、JBGA 事務局へお問い合わせ下さい。

11 ガイドの交通費と宿泊費の援助

JBGA 全国大会では、ブラインドゴルファーが JBGA 会員である場合、以下の規定に従い、ガイドの交通費と宿泊費の援助を申請できる。

【ガイドの交通費援助】

- 原則として、ブラインドゴルファーとガイドが同伴することを条件とする。
- ブラインドゴルファーとそのガイドは、同一または近隣の区域に住んでいることを前提とする。ブラインドゴルファーとガイドの居住地が非常に離れている場合は、原則として援助の対象となるのは、ブラインドゴルファーの居住地とゴルフ場の間の区間、もしくはブラインドゴルファーとガイドが同伴して移動した区間の、どちらか金額の低い方とする。
- 利用する交通機関（例えば飛行機と新幹線）は、どちらか金額の安い方とし、そのルートについても、より金額の安い方とする。
- タクシー及びグリーン指定席券は認められない。
- 障害者割引その他の割引を適用した場合の金額とする。
- ガイドの交通費援助を希望する場合は、ブラインドゴルファーまたはガイドより事務局へ「事前申請書」を所定期限までに提出しなければならない。事前申請がなかった場合、本援助を受けられない場合もある。
- ガイドの交通費援助を受領する際には、乗車券、特急券、航空券、有料道路等の領収書を提出しなければならない。但し、近距離の電車の切符、ETC など、小額にして定まった金額の場合や領収書の取得が困難なものについては事務局に相談する。

※乗用車で来た場合のガソリン代、ETC 高速料金等、大会参加にかかった分だけの客観的な領収書を取得できず、所定の計算式によりその金額を算出する場合、現金ではなく商品券やクオカードにより支給する。

ガソリン代援助金額は、1リットルの走行距離を 15km として計算する。

ガソリン代援助金額：走行距離 ÷ 15km × ガソリン価格

【ガイドの宿泊費援助】

- 援助の対象は、大会毎に事務局で定める「指定ホテル」での大会前夜のガイドの宿泊費とする。「指定ホテル」以外は援助の対象とならない。
- ガイドの宿泊費援助を希望する場合は「参加申込書」所定欄に記載すること。
- キャンセルによりキャンセル料が発生した場合は、申込者の自己負担とする。

◎ 送迎バスの利用について

送迎バス利用などに変更が生じた場合には、必ず事前に事務局へ連絡すること。

12 大会やラウンド練習会でのエチケットとマナー

- 一般的なゴルフマナーを遵守すること。
- プレー中およびハーフ休憩の飲酒、指定場所以外での喫煙は禁止（ラウンド練習会を含む）。
- ゴルフ場や一般客に迷惑となる遅延プレーには充分気を付け、ハーフ9ホールを2時間半でプレーすることを目安とし、前の組とは間隔を空けないこと。
- スタート時間を厳守し5分前にはティーイングエリアに来ること。特に昼食後のスタートは遅刻をしないこと。
- ボールを打つ前に「打ちます！」と宣言すること。宣言することで危険防止につながり、スコアラーも空振りかどうか判定し易い。
- パッティンググリーンに損傷を与えないよう注意すること。特にグリーン上でしゃがんだり、ひざまずいたりする場合、靴やひざの跡が残らないよう配慮すること。
- グリーン上で歩測する場合は、同伴競技者のパットの線やカップ周辺を傷めないように気を付けること。
- ラウンドの際は、目土袋を持ってディポットを目土すること。
- グリーン上にできたボールマークはグリーンフォークで補修すること。
- バンカーから出るときはレイキを使って砂をならすこと。

2006年10月 1日	制定
2007年 4月 1日	改訂
2008年 1月 1日	改訂
2009年 1月 1日	改訂
2009年 8月 1日	改訂
2010年 1月 1日	改訂
2011年 3月 1日	改訂
2012年 5月 1日	改訂
2012年11月 1日	改訂
2013年 3月 1日	改訂
2014年 2月20日	改訂
2015年 2月 5日	改訂
2016年 4月 1日	改訂
2017年 2月15日	改訂
2020年 10月10日	改訂

NPO 法人 日本ブラインドゴルフ振興協会（JBGA）

〒167-0053 東京都杉並区西荻南 2-17-8 ミスズビル3F

TEL : 03-3333-5481 FAX : 03-3333-3402 mail : info@jbga.org



特定非営利活動法人

日本ブラインドゴルフ振興協会(JBGA)

〒167-0053 東京都杉並区西荻南 2-17-8 ミスズビル 3F
TEL : 03-3333-5481 FAX : 03-3333-3402 mail : info@jbga.org

《2020年10月度版》